大手前新聞

創刊
2018年(平成30年)
佐伯市役所
大手前開発推進室
☎0972-22-4623

名称決定

佐伯市内を始め22都道府県の方から寄せられた927点の作品の中から、ついに新しい建物の名称が決定しました。

その名は、「さいき城山桜ホール」。

若者から高齢者まで多くの方から名称を考えていただいたこの建物は、多くの人に利用していただき、愛されるよう、2020年秋のオープンに向けて、準備を進めてまいります。

〈名称の由来〉

さいき城山桜ホールという名称は、佐伯の象徴「城山」、この城山を仰ぎ見る大手前に市民が集い、歴史や文化芸術を学び、様々な交流が生まれる場としてふさわしく親しみやすいこと、和風な外観ともマッチすることや「桜」の名所も近いこと、市の花である「ヤマザクラ」にも掛けて作成されました。

さいき城山桜ホール（しろやま さくら）

建物外観（完成予想図）

中高校生による投票～名称の決定

前号でお知らせしていた中・高校生による名称候補の投票は、11月1日～9日の間に行われ、「さいき城山桜ホール」が最多の1233票、「パラディさいき」887票、「ネオーテさいき」486票、「カブトホールさいき」306票、「キーサさいき」174票という結果でした（無効票19票）。

投票総数は３，１０５票でした。御協力ありがとうございました。

選考結果報告の様子

11月13日、選考委員会が、選考した5つの名称候補に中・高校生の投票結果による順位を付け、市長へ名称候補選考結果を報告しました。

これを受け、11月20日、市長・中高生の代表者が最高支持者に「さいき城山桜ホール」を名称にすると記しました。

未来に届け

フィナーレ・バルーンリリースの様子

私たちは、新しい「まちなか」の未来に向かって活動しています。

大手前開発事業の完成に向け、「大手前野外劇場」でプレイベント『まちなかユース文化祭　アルケミスト「あの空」コンサート』が行われました（わくわく大手前隊主催）。

ステージでは、しろやま共同保育園児による「花笠音頭」や、みのり幼稚園児による「YMCA」が披露され、佐伯出身の亀井さくらさんによる「アコースティックライブ」も会場を盛り上げてくれました。

最後に登場したアルケミストは、市内の小・中学生で構成された「あの空合唱団」と一緒に、佐伯の未来と子どもたちの未来のために、青空に向けて大きな声で歌い、その澄んだ声は、秋空の高く遠いところまで響き渡っていきました。

大手前開発事業プレイベント

まちなかユース文化祭

「あの空」

がんばれ、きこえていたあの日もどんなときも、ぼくにもできるはずさきっと　がんばれ　がんばれ

「アルケミスト」コンサート

佐伯がいちばん！

大手前には観覧車があった

毎日、佐伯小学校の窓から子どもたちは「さいき城山桜ホール」の建設現場を見ています。登下校時にも現場の横を通っています。

「どんな建物ができるのだろう」とわくわくしながら見ていると思います。

私は蒲江で育ち、小学生だった50年前は「大手前」と言えば、人が多く集まる繁華街、寿屋、映画館もあり、田舎の子どもから見れば憧れの楽しい場所でした。これは原稿の依頼があった時、どんなことを書こうかと考えると、小学2年生の時、社会見学で行った寿屋で撮影した写真が頭に浮かびました。そこの写真は屋上にあった観覧車の前で撮ったものです。おそらくこの観覧車に乗るのが楽しみで2時間近くバスに揺られ蒲江から出てきたと思います。写真を見ているとみんな楽しそうな顔をしているので、観覧車と大手前でのでは買い物に満足して帰校したのではないかと思います。

当時の大手前は、人が集まり誰もが楽しめる場所でした。今、新しい大手前が県外ナンバーの車も乗り入れられ、独歩館、歴史資料館等を見学さまざまな駐車場には学校前まで行きつけます。

大手前が市外・県外の方々も集える場所になることを願い、子どもたちとともに応援・協力していきたいと思います。新しい大手前が市外・県外の方々も集える場所になることを願い、子どもたちとともに応援・協力していきたいと思います。

佐伯市立佐伯小学校
校長
髙橋　豊明